

特集

カラー印刷絵本の始まり
～ウォルター・クレインの絵本～



左上『美女と野獣』（初版1874年）
左下『長靴をはいた猫』（初版1874年）

右上『この子豚ちゃん市場へ行った』（初版1871年）
右下『古いお友だちのアルファベット』（初版1874年）

CONTENTS

- 特集 カラー印刷絵本の始まり～ウォルター・クレインの絵本～ 千葉市美術館 山根佳奈
- 千葉市美術館訪問記 図書館総務課 佐藤健士
- 文学部教員の書棚—BUN Café「図書館の冒険」登壇教員オススメの本—
- 図書館の展示
- 新収資料紹介 中央大学教職員著作目録・資料目録（2016.8～2017.4 収集分）

カラー印刷絵本の始まり ～ウォルター・クレインの絵本～

山根 佳奈 (千葉市美術館 学芸員)

みなさんは、ウォルター・クレイン (Walter Crane 1845-1915) という名前を聞いたことがあるでしょうか。19 世紀後半のイギリスで、挿絵画家・デザイナー・画家・社会主義活動家など、様々な顔を持ち活躍した人物です。今から 150 年くらい前に、木口木版の彫版師で出版プロデューサーでもあったエドモンド・エヴァンズ (Edmund Evans 1826-1905) と組んでカラー印刷の絵本を世に送り出し、現代絵本の基礎を築いた重要な画家の一人とされる一方、ウィリアム・モリス (William Morris 1834-1896) とともにアーツ・アンド・クラフツ運動を推し進めたデザイナーとしても知られています。

モリスは、産業革命後の機械化による大量生産・大量消費の時代の始まりにあって、手仕事の尊さを説き、中世の職人たちによる美術と工芸に理想を見出しました。その晩年、理想の書物を生み出すべく設立した私家版印刷所のケルムスコット・プレスは、1891 年からモリス没後の 1898 年までに全 53 タイトルの本を刊行しています。活字のデザインや挿絵や装飾へのこだわりに加えて、手漉きの紙を使い、手動の印刷機を使って一つ一つ作られた本は、大変貴重なものと言えるでしょう。中央大学図書館では、このケルムスコット・プレスの刊本全タイトルを所蔵していますが、これに関連する資料の中にはクレインに関するものも多く含まれているのです。



図 1

理想を同じくした二人の共同制作として記憶されるのが、1894 年に刊行された『輝く平原の物語』の第 2 版 (図 1) で、クレインの挿絵 23 点が収められ、モリスがデザインした活字や装飾とともに美しいページを作り上げています。ケルムスコッ

ト・プレスの本は、すべて手仕事で作られたため、結果として高価な美術工芸品となり、限定部数の多くがコレクターの手に渡ったと考えられます。それは、一部の富裕層ではなく、すべての人々の生活をアートによって豊かにしたいと考えたアーツ・アンド・クラフツ運動の理想に照らしてみれば、皮肉な結果と言えるでしょう。

冒頭、クレインは現代絵本の基礎を築いた重要な画家の一人であると書きましたが、クレインが挿絵を描いた絵本、特に後ほど紹介する「トイ・ブック」と呼ばれ安価で大量に作られた本は、多くの子どもたちの手にわたり、そのほとんどがボロボロになるまで繰り返し読まれたと想像できます。子どものうちから芸術性の高いものに触れさせたいという、19 世紀後半のイギリス社会に芽生えた意識に沿うかたちで、クレインは数々の美しい絵本を世に送り出しました。中央大学図書館では、これらの絵本を何冊も所蔵していますが、ここでは代表的なものをいくつか時代背景とともに紹介します。

ウォルター・クレインは、1845 年、イングランド北西部の町リヴァプールで生まれました。「ペンと紙を手になまれてきた」と後に自らを振り返っているように、画家であった父にならい、子どもの頃から絵を描くようになったといわれています。クレインが 12 才の時に一家はロンドンに移り、やがて少年は、著名な彫版師ウィリアム・ジェームズ・リントンの木口木版工房で修行をすることになります。ところで、1830 年には内陸のマンチェスターとの間に鉄道が開通したリヴァプールは、60 年代には鉄道交通の要所となります。鉄道というものが、人々の生活習慣に与えた影響は様々ですが、読書という娯楽も鉄道とともに普及したといえるでしょう。駅では派手な黄色い表紙から「イエローバック (yellowback)」と呼ばれた安価な本が売られ、乗客は移動時間を読書に費やしました。一方で、事件の様子やニュースをわかりやすく伝えるため、当時の新聞や雑誌には挿絵が欠かせませんでした。挿絵は活字 (凸版) と一緒に印刷機で刷ることができる木口木版で作られ

ました。木口木版は、硬い柘植材を木口に切って版木とするため、彫るには技術が必要ですが、耐久性があり大量印刷に適していたのです。当時のイギリスにはたくさんの印刷所があったといわれ、クレインが挿絵の下絵を描く絵師として訓練を受けたリントンの工房もその一つでした。

絵本文化の花開いた 19 世紀後半は、「子どもの本」という分野が成立しつつあった時代でもあります。子どものために本を購入しようという親たちが現れ、1870 年の初等教育法制定を経て、子どもの読者は増えていきます。工房での訓練を終えたクレインに「すばらしいドローイングの才能」を見たエドモンド・エヴァンズは、やがて絵本づくりに乗り出します。当時トイ・ブックと呼ばれていた、簡易で価格を抑えた絵本の中には、単色刷りに手作業でところどころ色を塗ったものが出ていましたが、1865 年 (『不思議の国のアリス』が刊行された年でもあります)、木版による多色刷りカラー印刷のものが競うように出版されました。子どもの関心を引こうとしてか、安っぽくけばけしいものが多い中で、クレインとエヴァンズのトイ・ブックはその高い芸術性が評価されました。価格を抑えつつ、魅力的な絵とその魅力を最大限に引き出す多色刷りの技術が成功の理由といえるでしょう。

トイ・ブックは 8 ～ 12 ページ程度の簡易な作りであることから、複雑で長大な話を展開するには不向きといえます。題材として取り上げられたのは、皆が知っているナーサリー・ライム (マザーグース) やシンデレラといった物語など細部の説明が不要なものが多く、アルファベットの歌など、楽しみながら学ぶツールでもあったようです。絵本には当時の中流家庭の子どもたちが登場し、その生活をうかがうこともできます。クレインの姉ルーシーが文章



図 2

を書いた『アニーとジャックのロンドン見物』(1869 年 / 図 2) では、休日を楽しむため、家族 4 人が汽車に乗ってロンドンへやって来ます。マダム・タッソーの蝋人形館へ行ったり、動物園でクマを見たり、郊外に移築されていた水晶宮

や、ケンジントン公園へ行き、デパートで買い物をする様子が描かれています。

クレインとエヴァンズがトイ・ブックの仕事始めた頃のロンドンでは、ジャポニスム (日本趣味) がブームを迎えていました。1862 年の第 2 回ロンドン万国博覧会で、初代イギリス駐日大使のオールコックが日本から持ち帰った品々が公開されると、人々は浮世絵をはじめとする日本の美術に夢中になったのです。クレインの絵本にも、こうしたジャポニスムの

影響が見られます。1870 年に初版が刊行された『妖精の船』(図 3) は、イギリスの子どもたちに馴染み深いマザーグースの唄に題材を得ていますが、その構図と輪郭線には浮世絵の影響が指摘されています。斜めの



図 3

構図、陰影ではなく色面で表現しようという工夫、色として黒を効果的に使うあたりに、浮世絵版画からのヒントがうかがえるでしょう。実際この頃、クレインは日本帰りの知人から浮世絵版画を譲り受けたことがわかっています。当時ジャポニスムが社会的なブームであったことは、描かれた室内の様子からも想像できます。インテリアとして浮世絵や日本的なモチーフが使われたり、登場人物の手に団扇が持たされていたりします。これらのトイ・ブックは売れ行きが良ければ増刷を重ね、あるいは合本として売り出されました。合本はピクチャー・ブックと呼ばれ、複数のお話を楽しむことができます。

1876 年を最後にクレインはトイ・ブックの仕事をやめてしましますが、翌年にはエヴァンズとともに新たな絵本づくりに取り組みます。1877 年に刊行された『幼子のオペラ』(図 4) は、マザーグースの唄を中心に 36 曲が収められた



図 4



図5（上） 図6（下）



楽譜集で、ほぼ正方形のかたちをした美しい絵本には、クレインの挿絵や装飾が贅沢に盛り込まれています。この時期、室内装飾のデザイナーとしても活躍しており、この本の判型は当時手がけていたタイルの形からヒントを得ているともいわれています。クレインのデザイン・センスと、トイ・ブック作りの過程で実験と改良を重ねたエヴァンズの技術が大いに生かされたこの作品は大人

気となり、『幼子の花束』（1878年／図5）、『幼子のイソップ』（1887年／図6）とあわせた「幼子3部作」は、彼らの代表作となりました。トイ・ブックでは安価で良質な絵本を追求した二人でしたが、ここでは紙もインクも良いものを使っています。これらの本は、クリスマスなどにプレゼントとして贈られたのでしょう。



図7 花の女神フローラ

最後にもう一つ、美しい絵本を紹介します。中世の彩飾写本を愛し、ページにおける絵と文字と装飾の調和を重視したクレインの絵本には、しばしば絵と一体化するような魅力的な手書きの文字が登場します。1889年に刊行された『フローラの饗宴』（図7～10）には、花の女神フローラが冬の眠りから花々を呼び覚ましていく様子が、40点

に及ぶ絵によって描かれています。花々は擬人化され、春の訪れを告げるクロッカスやラッパ水仙に始まり、クリスマス・ローズまで、優雅で軽快な姿で季節を巡ります。これまでに紹介した木口木版によるカチッとした絵とは異なる曲線的で滑らかな輪郭線と柔らかな色調

は、カラーリトグラフならではのといえるでしょう。この本の成功を受けて、クレインは花をテーマとした絵本を続けて発表します。

得ていますが、1890年代には写真を使った三色分解が実用化され、その時代を終えます。1902年に出版された、ビアトリクス・ポターの『ピーターラビットのおはなし』の成功が、本格的なカラー写真製版印刷の時代の始まり（木版印刷の終焉）といわれています。写真製版技術はおおよそどのような技法で描かれた絵であっても、そのとおりを再現し、複製（印刷）することができます。けれども、木版やカラーリトグラフによる印刷には、版ならではの質感と個体差（これを味わいと表現しても良いでしょう）がありますし、技法の制約があるからこそそのデザイン上の工夫も感じられるでしょう。その豊



図8 ラッパ水仙



図9 チューリップ

図10 パラ

図書館では、この特集にあわせて

**「第26回中央図書館企画展示：
カラー印刷絵本の始まり
～ウォルター・クレインの絵本～」**

を開催します。
この機会にぜひご覧ください。

**期間：2017年10月21日(土)～11月24日(金)
場所：中央図書館2階展示コーナー**

千葉市美術館訪問記

図書館事務部総務課 佐藤健士

J R千葉駅東口の改札を出て、駅前の大通りを歩いていくと、プロムナード沿いに並ぶポールに巻き付けられた「千葉市美術館 CCMA」の赤いサインがすぐに目に飛び込んで来る。そのサインに導かれるように中央公園を過ぎて、しばらくすると太い円柱が印象的な千葉市美術館の入った建物が見えて来る。

こちらの建物は中央区役所との複合施設になっており、1～2階部分は昭和2年に建築されたネオ・ルネサンス様式の旧川崎銀行千葉支店を復元・保存し、それを包み込むようにして「さや堂方式」で建築されている。歴史と文化を感じさせる、まさに美術館に相応しい建物である。千葉市美術館は、この建物の7階、8階にある。

千葉市美術館が、滋賀県立近代美術館とともに「ウォルター・クレインの本の仕事」展を企画し、本学図書館が所蔵しているウォルター・クレインの資料を40点ほど貸し出すこととなったことから、今回千葉市美術館で展覧会を見学させてもらう機会を得た。

本学図書館としてはこれほど多数の資料を約5ヶ月間に渡って展覧会のために貸し出すというのは近年にないことだったので、資料がどのように活用され、展示されているのか、貸し出しに携わった担当者の一人として、この展覧会の開催を心待ちにしていた。

訪問した当日（2017年4月5日）は、会期初日であったにもかかわらず、本号の特集にご寄稿くださった山根佳奈学芸員に案内していただきながら、ゆっくりと鑑賞することができた。展覧会場は、「クレインのトイ・ブック」、「カラー絵本の仕掛け人エヴァンズとコールドコット、グリーンウェイの絵本と挿絵本」、「本をデザインするークレインの挿絵本の仕事」、「クレインの素顔」の4章から構成されており、彫版師・刷師エドモンド・エヴァンズとのコラボレーションによる初期のトイ・ブックから傑作絵本の数々、『幼子のオペラ』などの歌曲集、アーツ・アンド・クラフツ運動のウィリアム・モリスとの関わり、デザイナーとしての仕事など、まさにウォルター・クレインの生涯の工作和活動を多角的に展観できる素晴らしい展示であった。時期によって作家の作風・表現様式が変遷していき、それは印刷技術の発達や社会の情勢・流行等に大きく影響を受けることがよく理解できた。

また、会場内のプロジェクターで本学図書館所蔵の『幼子のオペラ』が名作選として投影されていたこと、ミュージアムショップで販売する絵葉書のデザインにも同資料が採用されたことも嬉しいことであった。



駅前のプロムナード沿いのサイン



千葉市美術館が入っている建物の外観



第一会場入口の看板



会場内の様子



記念撮影ができる「美女と野獣」のパネル



眺望が素晴らしい11階のレストラン

文学部教員の書棚 — BUN Café「図書館の冒険」登壇教員オススの本 —



フクシマ・ノート 忘れないう、災禍の物語

ミカエル・フェリエ著 義江真木子訳
新評論 2013
所蔵：中央書庫・開架・理工
請求記号：956/F22



奪われた野にも春は来るか 鄭周河写真展の記録

高橋哲哉，徐京植編著
高文研 2015
所蔵：開架
請求記号：543.49/Ta33



大田 美和 教授

『フクシマ・ノート』の著者は文学部教授。文学の存在価値と作家の責任という根源的問題について考えさせてくれる本。本書を通して芭蕉や『平家物語』などの古典に出会ってもいい。『奪われた野にも春は来るか』は、3.11 後の放射能汚染地域の自然を撮影した、韓国の写真家鄭周河（チョン ジュハ）の写真展の巡回展示とトークの記録。詩的想像力による、異なる時代や場所の人々の苦痛の連帯は可能かと問う。表題は李相和（イ サンファ）の有名な詩の題。討論の途中でシマクトゥバが飛び出す沖縄・佐喜真（さきま）美術館の章は圧巻。



華氏 451 度 新訳版

レイ・ブラッドベリ著 伊藤典夫訳
早川書房 2014（ハヤカワ文庫）
所蔵：開架
請求記号：933/B71

映画「図書館戦争」は、本が燃えているシーンから始まる。言論や思想を弾圧、統制する焚書を想起させるこの場面は、図書館情報学を研究する者でなくとも、一種の嫌悪感を覚えるのではないだろうか。そこから連想した本が『華氏 451 度』である。本を焼くことを職業とする主人公を描いたこの作品からは、なぜ書物が焼却されなくてはならないのか、その社会的背景について考えさせられる。では、世の中で本とは、そして図書館とはどのような存在なのであろうか。その答えの一つは『おさがしの本は』に見つけられるかもしれない。



おさがしの本は

門井慶喜著
光文社 2011（光文社文庫）
所蔵：開架
請求記号：913.6/Ka14



小山 憲司 教授



縛られた男

イルゼ・アイヒンガー原著 真道杉，田中まり訳
同学社 2001
所蔵：中央書庫
請求記号：943/A23



より大きな希望

イルゼ・アイヒンガー著 小林和貴子訳
東宣出版 2016（はじめて出逢う世界のおはなし）
所蔵：開架
請求記号：943/A23



羽根 礼華 准教授

言語を絶する暴力の経験を起点として、いかなる文学が可能か。ナチスの迫害にさらされたオーストリアの作家イルゼ・アイヒンガー（1921–2016）の短篇集『縛られた男』には、墮胎手術で命を落とした若い女性の葬儀の場面に始まり、映画の巻き戻しのように誕生までの時間を遡って語られる「鏡物語」他、計 12 編の答えが収められています。昨年新訳が出た、自伝的要素を含む長編『より大きな希望』とあわせて、お薦めします。

図書館の展示

図書館では、本誌 My CUL の特集記事と連動する展示や、各種行事にあわせた展示を企画しています。今年度上半期には以下展示を行いました。皆様ご覧いただけましたでしょうか？普段はなかなか間近に見られない貴重書や、展示テーマに沿った名著など、数ある蔵書の中から厳選された資料をご覧いただける絶好の機会です。開催情報は図書館ホームページや掲示などで随時ご案内していますので、ぜひご観覧ください！

■第 25 回企画展示「計る・量る・経済を測る」（2017 年 4 月 1 日（土）～5 月 6 日（土））

春に刊行された「My CUL」第 29 号の特集「計る・量る・経済を測る」（小口好昭経済学部教授・前図書館長）と連動した企画展示を行いました。特集で紹介された書籍を中心に、テーマとなる会計学関連の貴重書コレクションなどもあわせてご覧いただきました。



■ 2017 年「日・EU フレンドシップウィーク」イベント（2017 年 5 月 12 日（金）～6 月 3 日（土））

今年は「EU ポスター展」と題して EU 各機関で制作された地図、年表、制度や政策の広報、インフォグラフィックなどさまざまなポスターおよそ 50 点を展示しました。また、毎年好評を得ている「EU クイズ」にも、例年を上回る多数のご参加をいただきました。ポスター展のご観覧をはじめ、イベントへのご参加ありがとうございました。中央図書館 2 階の国際機関資料室では国際機関の刊行する豊富な資料を閲覧することができます。ぜひ足を運んでみてください！



- ★この他、オープンキャンパスでは 2016 年に引き続き「文明開化の錦絵展」を実施し、華やかな錦絵をお楽しみいただきました。
- ★「My CUL」バックナンバーについては、図書館ホームページからも閲覧いただけます。
<http://www.chuo-u.ac.jp/library/about/publication/mycul/>

新収資料紹介

教職員著作目録 2016.8－2017.4 配架図書一覧（ ）は所属学部等

著者名		書 名	出版社	出版年月	配架場所	請求記号
浅野 孝夫 (理)	著	アルゴリズムの基礎とデータ構造：数理とCプログラム	近代科学社	2017.3	理開/理開指定	007.64/A87
新井 誠 (法)	編	高齢社会における信託制度の理論と実務：金融・信託業から医療・福祉・看護までの役割と機能	日本加除出版	2017.3	中央書庫/開架	324.82/A62
石島 博 (会計)	著	正規分布で解く資産の動的評価（ファイナンスの理論と応用 2）	日科技連出版社	2016.12	中央書庫/市ヶ谷法務	338.01/I75
井田 良 (法務)	編	新時代の刑事法学：椎橋隆幸先生古稀記念 上下巻	信山社	2016.11	中央書庫/開架	326/I18
井田 良 (法務)，佐渡島 紗織，山野目 章夫	著	法を学ぶ人のための文章作法	有斐閣	2016.12	開架/市ヶ谷法務	320.7/I18
井田 良 (法務)	著	基礎から学ぶ刑事法 第6版	有斐閣	2017.4	中央書庫/開架	326/I18
上野 清貴 (商)	編	現場で使える簿記・会計	中央経済社	2017.4	中央書庫/開架	336.9/U45
マリアン・トールマレン 内田 彰綱，海老根 宏 大田 美和 (文) ほか	編 監修 監訳	歴史のなかのフロンテ	大阪教育図書	2016.12	中央書庫/英文	930.2/B75/Mh8

著者名		書 名	出版社	出版年月	配架場所	請求記号
大野 昶彦 (理), 鈴木 弘樹	著	日本の美しい庭園図鑑	エクスナレッジ	2017.3	開架	629.21/O67
サイモン・ベニンガ 大野 薫 (会計) 小堀 一英 ほか	著 監訳 訳	ファイナンシャル・モデリング: Uses EXCEL	ロギカ書房	2017.2	中央書庫/田町会計	338.01/B35
モーリス・メルロ＝ポンティ 加賀野井 秀一 (理) ほか	編著 監訳	歴史の発見・実存と弁証法・「外部」の哲学者たち (メルロ＝ポンティ 哲学者事典 第3巻)	白水社	2017.3	参考	103.3/Me66
河西 良治 (文)	著	人生の意味論: 価値評価をめくって (開拓社言語・文化選書 66)	開拓社	2017.3	中央書庫/開架	801.01/Ka72
加藤 新太郎 (法務), 松本 明敏	編	裁判官が説く民事裁判実務の重要論点 家事・人事編	第一法規	2016.12	中央書庫/ 市ヶ谷法務	327.2/Ka86
加藤 新太郎 (法務)	編著	民事尋問技術 第4版	ぎょうせい	2016.12	中央書庫/ 市ヶ谷法務	327.22/Ka86
加藤 新太郎 (法務), 松本 明敏	編	裁判官が説く民事裁判実務の重要論点 契約編	第一法規	2017.2	中央書庫/ 市ヶ谷法務	327.2/Ka86
上坪 正徳 (名)	著	シェイクスピアとロマン派の文人たち (中央大学学術図書 92)	中央大学出版部	2017.3	中央書庫	932/Sh12/Ka38
岸 真清 (名) ほか	著	基本観光学	東海大学出版部	2017.3	開架	688/Ki56
木立 真直 (商), 佐久間 英俊 (商), 吉村 純一	編著	流通経済の動態と理論展開	同文館出版	2017.4	開架/田町会計	675.2/Ki12
北村 泰三 (法務), 西海 真樹 (法)	編著	文化多様性と国際法: 人権と開発を視点として (日本比較法研究所研究叢書 112)	中央大学出版部	2017.3	中央書庫/開架	329/Ki68
斎藤 正武 (商), 堀内 恵 (商)	編著	医療ビジネスとICTシステム: 医療を巡る今日の課題 (中央大学企業研究所研究叢書 38)	中央大学出版部	2017.1	中央書庫/開架	498.16/Sa25
酒井 克彦 (商)	編著・ 監修	新しい加算税の実務: 税務調査と資料情報への対応	ぎょうせい	2016.12	中央書庫/ 市ヶ谷法務	345.1/Sa29
酒井 克彦 (商)	編著・ 監修	クロースアップ保険税務 生命保険編	財經詳報社	2017.1	開架	339.35/Sa29
佐々木 信夫 (経)	著	東京の大問題! (マイナビ新書)	マイナビ出版	2016.12	開架	318.236/Sa75
佐々木 信夫 (経)	著	老いる東京 (角川新書 [K-130])	KADOKAWA	2017.3	中央書庫/開架	318.236/Sa75
佐藤 鉄男 (法務), 中西 正 北島(村田) 典子 ほか	編著 著	倒産処理プレーヤーの役割: 担い手の理論化とグローバル化への試み	民法法研究会	2017.3	中央書庫/ 市ヶ谷法務	327.36/Sa85
佐藤 博樹 (戦略), 武石 恵美子	編	ダイバーシティ経営と人材活用: 多様な働き方を支援する企業の取り組み	東京大学出版会	2017.1	中央書庫/戦略経営	336.4/Sa85
佐藤 元英 (文)	著	経済制裁と戦争決断	日本経済評論社	2017.2	中央書庫/開架	319.1/Sa85
椎橋 隆幸 (名)	編	プライマリー刑事訴訟法 第6版	不磨書房	2017.3	中央書庫/開架	327.6/Sh32
横大道 聡 赤坂 幸一, 柴田 憲司 (法) ほか	編著 著	憲法判例の射程	弘文堂	2017.4	開架/総合政策	323.14/Y74
高橋 宏幸 (経), 加治 敏雄 (商), 丹沢 安治 (戦略)	編著	現代経営戦略の軌跡: グローバル化の進展と戦略的対応 (中央大学経済研究所研究叢書 67)	中央大学出版部	2016.12	中央書庫/開架	336.1/Ta33
瀧田 賢治 (名)	編著	21世紀国際政治の展望: 現状分析と予測 (中央大学政策文化総合研究所研究叢書 22)	中央大学出版部	2017.3	中央書庫/開架	302.1/C66
武智 秀之 (法)	著	政策学講義: 決定の合理性 第2版	中央大学出版部	2017.2	中央書庫/開架	301/Ta58
只木 誠 (法務) 北川 佳世子 ほか	編著 著	刑法演習ノート: 刑法を楽しむ21問 第2版	弘文堂	2017.3	中央書庫/開架	326/Ta16
高橋 治男 (名)	著	交友余情: 忘れえぬ師友の肖像	中央大学出版部	2016.12	中央書庫/開架	950.4/Ta33
中央大学人文科学研究所	編	英雄詩とは何か 続 (中央大学人文科学研究所研究叢書 64)	中央大学出版部	2017.3	中央書庫/開架	902.81/C66
サミュエル・ジョンソン, スレイル夫人 中央大学人文科学研究所 市川 泰男 (名) ほか	著 編訳	ジョンソン博士とスレイル夫人の旅日記: ウェールズ(1774年)とフランス(1775年) (中央大学人文科学研究所翻訳叢書 17)	中央大学出版部	2017.3	中央書庫/開架	935/J64
津野 義堂 (法)	編著	オントロジー法学 (日本比較法研究所研究叢書 113)	中央大学出版部	2017.3	中央書庫/開架	321.1/Ts81
永井 和之 (名), 中島 弘雅, 南保 勝美	編	会社法新判例の分析	中央経済社	2017.1	中央書庫/ 市ヶ谷法務	325.2/N14
永井 和之 (名)	編	法学入門 第2版	中央経済社	2017.4	中央書庫/開架	321/N14
石川 幸一, 馬田 啓一, 清水 一史 中條 誠一 (経) ほか	編著 執筆	検証・アジア経済: 深化する相互依存と経済連携	文眞堂	2017.3	開架	332.2/I76
上田 雅夫, 生田 目 崇 (理)	著	マーケティング・エンジニアリング入門 (有斐閣アルマ Specialized)	有斐閣	2017.2	開架 理開	675.2/U32 675/U32
本沢 巳代子, 新田 秀樹 (法)	編著	トピック社会保障法 2017: 第11版	不磨書房	2017.3	中央書庫/開架	364/Mo93
長谷川 聰哲 (経)	編著	アジア太平洋地域のメガ市場統合 (中央大学経済研究所研究叢書 69)	中央大学出版部	2017.3	中央書庫/開架	333.5/H36
トーマス・ヴェルテンベルガー 畑尻 剛 (法)	著 編訳	国家と憲法の正統化について: トーマス・ヴェルテンベルガー論文集 (日本比較法研究所翻訳叢書 75)	中央大学出版部	2016.12	中央書庫/開架	323.01/W97
ティートリッヒ・ムルスヴィーク 畑尻 剛 (法)	著 編訳	基本権・環境法・国際法: ティートリッヒ・ムルスヴィーク論文集 (日本比較法研究所翻訳叢書 77)	中央大学出版部	2017.3	中央書庫/開架	323.34/Mu79
早田 幸政 (理), 工藤 潤 永田 恭介 ほか	編著 著	内部質保証システムと認証評価の新段階: 大学基準協会「内部質保証ハンドブック」を読み解く	エイデル研究所	2017.3	中央書庫/ 市ヶ谷法務	377.11/H49
日高 克平 (商) 井上 善博 ほか	編著 著	Industrial Renaissance: new business ideas for the Japanese company (中央大学企業研究所研究叢書 39)	中央大学出版部	2017	中央書庫/開架	658.0952/I42
兵藤 宗吉 (文), 緑川 晶 (文)	編	心の科学: 理論から現実社会へ 第2版	ナカニシヤ出版	2017.2	中央書庫/開架	140/H99
間島 進吾 (商), 石橋 武昭, 志目 健二	著	IFRSプロフェッショナルマニュアル	中央経済社	2017.2	中央書庫/開架	336.92/Ma32
益永 淳 (経)	編著	経済学の分岐と総合 (中央大学経済研究所研究叢書 68)	中央大学出版部	2017.1	中央書庫/開架	331.2/Ma68
ディルク・エーラーズ 松原 光宏 (法)	著 編訳	教会・基本権・公経済法: エーラーズ教授名誉学位授与記念講演集 (日本比較法研究所翻訳叢書 76)	中央大学出版部	2017.3	中央書庫/開架	323.34/E35
三浦 俊彦 (商), 丸谷 雄一郎, 犬飼 知徳	著	グローバル・マーケティング戦略 (有斐閣アルマ Specialized)	有斐閣	2017.4	中央書庫/開架	675.2/Mi67
森 光 (法)	著	ローマの法学と居住の保護 (日本比較法研究所研究叢書 110)	中央大学出版部	2017.2	中央書庫/開架	322.32/Mo45
森信 茂樹 (法務) 梅澤 高明, 佐藤 主光, 土居 文朗	編著 述	税と社会保障でニッポンをどう再生するか	日本実業出版社	2017.1	開架/市ヶ谷法務	345.1/Mo59
ウィリアム・モリス 森松 健介 (名)	著 訳	秋から冬へ (地上の楽園)	音羽書房鶴見書店	2017.1	中央書庫/開架	931/Mo78
山内 惟介 (名)	著	法文化の諸相 (日本比較法研究所研究叢書 111)	中央大学出版部	2017.2	中央書庫/開架	321.9/H57
巨理 格 (法), 大貫 裕之 (法務)	編	都市計画法制の枠組み法化: 制度と理論	土地総合研究所	2016.6	中央書庫/ 市ヶ谷法務	519.8/W47

* (法): 法学部、(経): 経済学部、(商): 商学部、(文): 文学部、(総): 総合政策学部、(理): 理工学部、(法務): 法務研究科、(会計): 国際会計研究科、(戦略): 戦略経営研究科、(研): 研究開発機構教授、(名): 名誉教授
 * 配架場所は2ヶ所までとした